

## 日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録

——昭和二三（一九三八）年の『家計日誌』——

西村 卓

はじめに

本史料は、京都市上京区東魚屋町で豆腐製造と行商を家業とする入山音治郎という人物の書き残した『家計日誌』を翻刻したものである。この「家計日誌」から、われわれは、日中戦争期の「高揚」のなかにあつて、京都市中の一家族がどのような生活をおくっていたのかをリアルに読み取ることができるのである。

本『家計日誌』は、縦一九cm横一三cmの冊子の形をとっている。昭和二三（一九三八）年のものである。この意匠は当時の大阪貯蓄銀行が考案したものとされ、巻頭部分には、以下の目次にあけるような、文字通り家計をやりくりする場合の便利帳という内容が掲載されている。さらに日誌は上下段に分かれ、上段に日記、下段にその日の家計支出が記載できるような体裁となっている。その目次は以下のようなものである。すなわち「知っておくべき銀行常識」「複利終価表」「毎日拾銭宛預けると」「年齢早見表」「年時早見表」「鉄道規則摘要」「国立公園十二ヶ所」「敬神の旅」「著名の温泉」「郵便諸規則」「メートル法」「家庭欄」「贈答品控」「勸業債券抽籤月一覽表」「貯金通帳覚え書」「住所録」「本年中の重要記録」である。「家庭欄」はさらに「赤ン坊十二ヶ月」「幼児の食物」「子供の育て方」「健康体計数」「家庭常備薬」「ガスの上手な使用法」「汚点抜き秘訣」「コーヒの上手な入れ方」「家庭儀式」「贈答の葉」「家庭防空の知識」と細かく分かれ掲載されている。この日誌が銀行によつて考案されていることから貯蓄への誘導は当然

としても、これらの目次自体、時代の一つの表象であり、この日誌を利用し記述していくこの時代の家族にとつての必要事項であつたらう。日中戦争期であつたことから「家庭欄」の「家庭防空の知識」などは、「一、防護上必要なる平素の準備」「二、防空命令が下つてからの支度」「三、警戒警報が下つたら」「四、空襲警報が下つたら」「五、毒ガス警報があつたら」「六、防空三則」と事細かな記述があることはそのことを示している。なお、日誌は無記述の日が一二四日分、特に六月、八月の後半、十一月、十二月に多く見られ、全体としてはほぼ四か月分ある。

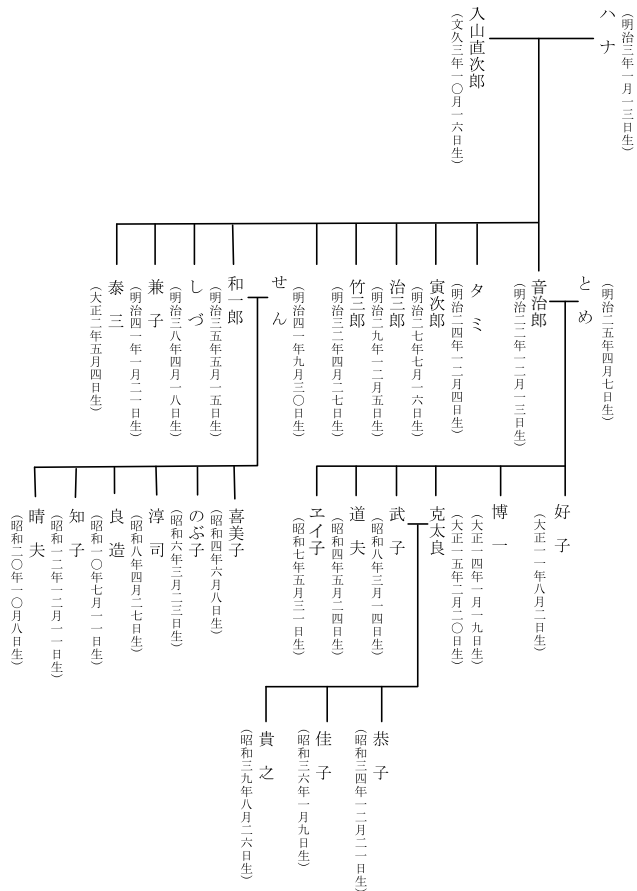
### 入山音治郎とその家族

さて、この日誌の記述者である入山音次郎とその家族について触れておきたい。

第1図に示すように、この日誌の記述者である音治郎は、明治二二(一八八九)年二月二三日に、父直次郎、母ハナの長男として京都市上京区で生を受ける。直次郎、ハナ夫婦は、そのあとタミ(長女)、寅次郎(次男)、治三郎(三男)、竹三郎(四男)、和一郎(五男)、しづ(次女)、兼子(三女)、泰三(六男)と子どもをもうける。ただし、治三郎は出生後一年未満(明治三〇年九月八日没)で、竹三郎は七歳八カ月(明治四〇年一月二五日没)で早世している。

妻とめ(滋賀県坂田郡長浜町にて父山田梅吉、母すての四女として生れる)とは、大正一〇(一九二一)年一〇月に結婚をし、好子(長女)、博一(長男)、克太良(次男)、道夫(三男)、エイ子(次女)と五人の子どもをもうける。しかし、長男博一は二カ月半ほど(大正一四年三月三日没)で早世している。それゆえ、克太良が実質的には長男として音治郎家で育てられる。

音治郎は父直次郎から昭和一二(一九三七)年三月に満四七歳で家督を相続し戸主となる。その意味では、本稿で分析する日誌は、家督相続の翌年、音治郎が満四八歳の時に記されたものである。



第1図 入山家略系図

父直次郎は、本籍地を上京区榎木町通油小路西入西山崎町一九番戸から、上京区榎木町通油小路東入東魚屋町三四八番地へと換え、昭和三（一九二八）年七月に現在の入山家の住所である上京区榎木町通油小路東入東魚屋町三四七番地に転籍している。昭和一九（一九七二）年二月に満七九歳で没しているが、直次郎の妻ハナは大正一一（一九二二）年二月に満五二歳で先立っている。

父直次郎の子どもたちの出生後の来し方であるが、長女タミは大正六(一九一七)年九月に本籍地が上京区小川通丸太町上ル上鍛冶町の山田安之助と婚姻、次男寅次郎は本籍地上京区丸太町間之町西入ル関東屋町の寺田家(ハナの入山家入籍により、廃家となっていた)の家督を相続、五男和一郎は昭和三(一九二八)年に分家をしている。分家にあたって、上京区樫木町通油小路東入ル東魚屋町三四七・三四八番地の二つの宅地のうち、直次郎の本籍地を三四八番地から三四七番地に移し、三四八番地を和一郎の本籍地とした。三女兼子は昭和六(一九三二)年四月に本籍地愛媛県宇摩郡寒川村の木花正一と婚姻した。

それゆえ、長男音治郎が父直次郎から家督を相続した時点では、入山音治郎家は、父直次郎、妻とめ、妹しづ(日誌中では静、静子などとも記される)、弟泰三、さらに子どもたちが四人という三世代にわたる家族を構成していた。そして家業としての豆腐屋は音治郎が継承していった。

和一郎家は昭和三(一九二八)年七月に分家し、本家の隣りに居を構え、妻せん(滋賀県野洲郡三上村出身)をむかえることになる。その後長女喜美子を昭和四(一九二九)年六月にもうけ、続いて次女のぶ子、長男淳司、次男良造、三女知子、終戦の年一〇月に三男晴夫をもうけている。この日誌が記述された昭和一三(一九三八)年には、和一郎本人は出征しており、妻せんが留守を預かり、子どもたち五人とともに生活を営んでいたのである。

## おわりに

本史料を丹念に読み解くことで、日中戦争期の「高揚」のなかにあって、「豆腐行商人家族の「生きる」「楽しむ」「交流する」「支える」という日常のリアルな姿と、彼らを取り巻く地域コミュニティの姿をとらえることができる。

そしてまた、昭和二三(一九三八)年という年が、文字通り「いけいけドンドン」の戦況を示していた年であり、その状況下で、徐々に戦争が日常化し、日常が戦争化していく姿、言い換えれば、戦争が生活のなかに浸透し、戦争を常に意識しつつ生活を営む家族



(表紙)

家計日誌

一月一日 (土曜)

晴れ、ときとき曇り

一月二日 (日曜)

晴れ、ときとき曇り

木花 正一氏

年始の礼を受く

山田安之助氏

一月三日（月曜）

晴れ

岡本友次郎氏

田村 藤七氏

年始廻り礼を受

一月四日（火曜）

晴れ、午後小雪降る

仕事初め

一月五日（水曜）

晴れ、とき〜曇り

早朝冷込み、手洗水凍る

白 大一 揚 大一

白 大一  
揚 大一

西川 白 四  
府丁 上 四十  
粟津 白 五  
大塚 白 二  
全部売切

一月六日（木曜）

晴れ、時々曇り、風なし

父、民、摩気神社参詣

一月七日（金曜）

晴れ、和風

とめ、長浜へ行く

門川氏訪問見舞

商休み

夕食にかしわ 1.0

白 大二  
揚 大二



一月八日（土曜）

晴れ、和風

門川初太郎氏死去、午後八時入電、午後三時二十五分発列車にて上浜す、  
五時半頃門川氏宅着、翌午前一時頃まで夜とぎす

片原隠居にて就寝す

積雪二尺余長浜

白 大二  
揚 大二  
四時起

一月九日（日曜）

晴

片原宅午前九時起、十時朝食、十二時に北町へ香儀和一郎二円、山安様三円、  
入山五円、別に親族一同の花代一円五十銭、午後二時半出棺、自働車（マイ）にて  
町はづれ迄、其れより先往復徒歩、五時半帰宅、六時半料理屋、七時中村  
様訪問、七時半北町、八時半片原、九時長浜駅へ、九時十二分発下関行米  
原にてのりかへ、十一時三十分頃京都駅着、電車にて帰宅十二時

一月十日（月曜）

晴、起床七時

風和

一月十一日（火曜）

晴

柿伝のちくわ注文

一月十二日（水曜）

晴、小雪ちらつく

悉く接収

感慨無量

白 大一  
揚 大二

白 大二  
揚 大二

白 大一 14  
あげ 大二 120  
やき 20

一月十三日（木曜）

小雪降積る、風冷酷

山田安之助氏及び隣り仙んへ和一郎より手紙来る、泰三も無事

一月十四日（金曜）

曇り、風無

一月十五日（土曜）

晴

裏の物置の正里セイリ

休ミ

長浜門川氏より美ママかん奇贈

同志社ママ受業料 25.0

白 大三

揚 大一

安缶大豆五吩 51.0

白 大二

揚 大二

一月十六日 (日曜)

曇り時々しぐれ

田村重次郎氏宅にて新年会催しあり、父出席

一月十七日 (月曜)

晴、午前中は小春日よりで、日なた暖かであった

今日は山田安之助氏の第

室

回たん生日にて御膳分を貰ふ

一月十八日 (火曜)

晴、二階の奥の間を修繕

白 大二  
揚 大二

白 大二  
揚 大二  
さつき一  
中村接□

白 大二  
揚 大一

一月十九日（水曜）

終日降雨、今年に入りて初の雨

上海派遺軍泰三へ手紙を出す

白 大貳  
揚 大一

一月二十日（木曜）

後ち晴れ、夜来の雨午後に晴れた、無風、暖冬

豆腐商業組合新年会夕刻より上御霊前ひ□矢い

白 大一  
揚 大二

一月二十一日（金曜）

曇り時々晴れ間があった

今日は新聞に二十三年ふりに大寒に暖た、か□寒であると

泰三、和一郎より便りがあった

税務所へ出征軍人家族として申告に行った

帰路岡本氏訪問す

白 大一  
焼 二十

一月二十二日（土曜）

曇り時々晴であった、寒風吹き大寒の候時となりだした  
泰三より手紙来る

一月二十三日衣棚出水上ル

午後一時半法貴伸之

二月一日渡辺享午後七時

朝巡り休む

一月二十三日（日曜）

曇り、午后小雪ちらつき寒冷増す

父、真如堂参詣

滋野婦人会演会かあり、好子出席す

白 大二  
揚 大二  
焼 四十

割木六十束カ 1.30

白 大二  
揚 大二  
焼 二十

父あんま 0.40

克太良眼鏡 1.30

出征慰問タバコ 1.60

一月二十四日(月曜)

曇り、寒冷の風吹き、寒むき日

粟津注文 やき十五

府丁注文 白十丁

午后巡り休ミ

一月二十五日(火曜)

曇り、時々晴間があつた、無風和

一月二十六日(水曜)

曇り、降雪

白 大二  
揚 大二  
焼 卅五

白 大二  
揚 大二  
焼 三十五  
ヒロス 十九

白 大二  
揚 大二  
焼 三十五

大豆安缶五盼

一月二十七日(木曜)

雪、晴、曇、無風

六時起床

巡り休ミ、府庁焼六十五注文

和一郎ヨリ便り有

老田四十九銭 竹田

六円九十六銭 森田

一月二十八日(金曜)

曇り、晴、曇り、和風

五時半起

東魚屋町午后六時ヨリ

渡辺享様応召の爲め、御霊神社祈願武運長久

白 大二  
揚 大二  
焼 六十

白 大三  
揚 大一



一月二十九日(土曜)

曇り、晴、晴、弱風

五時半起

芝原氏妻女来訪有りた

あぶら出しエンカコバルト

一月三十日(日曜)

雨、(雨)、雨

五時半起

一月三十一日(月曜)

曇り、晴、晴、風無

五時起

滋野小学校出征軍人家族慰問

山田安様より折詰菓子を貰ふ

白 大二  
揚 大二

白 大貳  
揚 大貳  
焼 四十五

白 大二 三十丁  
揚 大三 百八十  
焼 三十八

愛様へ菓子料——1.0

二月一日 (火曜)

七時起床、曇り、あられ、晴  
小雪

北西の弱風寒

一昨日横なげしにすべりこけ、左りのうで痛み、愛様に診察して貰ふ  
塩湯にてシツプ膏薬を貰つてはる

藤林佐太郎氏亡父廿五回忌に相当、一月五日供養に湯のみ二個

烏丸吉川餅あんころ一折詰を受る十六個人

三里へお灸

木灰売十五銭収

二月二日 (水曜)

六時起床、曇り、小雪降、小雪降

北西の風寒

麵類商達富の依頼、節分屋祭り、和一郎、泰三、音治郎にて五十銭奇進シマツマす

父午後三時道夫を従れ、吉田神社参拝

土産八ツ橋三十銭

山安より甘鯛二尾受貰

三里お灸

中村あんま、とめ

白 大二 三十  
揚 大二 百二十五  
焼 四十

麵類達富依頼、屋祭 0.50

白 大二 二十六  
揚 大一 六十二  
焼 五十

店用のごぼー 0.10  
愛様へ菓子料 1.00  
好子・エイ子入浴 0.08  
香の物とからし漬 0.17  
たらの子と塩鮭

二月三日（木曜）（節分）

五時半起床、雪降、小雪、曇り

北西の風冷寒

三里灸

千本上立売釘抜地藏参詣

二月四日（金曜）（立春）

五時半起床、晴、晴、晴

北西の風温

町内三田村弥一郎氏宅午前八時半頃出火、二階の一部を焼、大事に至らず、

暫時にして消

父午後吉田神楽岡町藤林氏訪問

慈照寺より亡母の十七回忌の通知あり

白	大二	三十
揚	大二	百二十二
焼		三十八

克太良受験用参考書一 0.45

白	大三	三十二
揚	大一	六十
焼		八十
カルシウム	一カン	1.85
さつまいも		
あを豆		
藤林氏亡父年忌手向資		1.00
音		0.05
トメ		0.05
克		0.03
道夫		0.03
エイ子		0.03
好子		0.05

二月五日（土曜）

五時起床、曇り、曇り、曇り

東南風温

浅野様へ好子使ひ、かしわ、やき豆腐、团十郎もなか貰つて来た、及び毛布一

二月六日（日曜）

五時半起床、曇り、々、々

北西の風温

大津若林氏来る

○和一郎より葉書来る

三里灸点

白	大二	二十八
揚	大二	百二十二
焼		四十

豆腐製造用絞り袋	1.40
薬りどびん	0.25
あかざ薬草	0.32
中村あんま	0.40

白	大二	三十
揚	大二	百二十二
焼		四十

しづの浅野様宅へ	0.35
エイ子の毛糸服毛糸	3.50
中村あんま	0.40

二月七日（月曜）（初午）

五時半起床、曇り、々、小雪

西南の風寒

東魚屋町一同より町内出征軍人に慰問袋送らる

伊賀圓次君より葉書来る、和一郎より葉書来る、石家莊駅前より無事

○薬草呑み初める、あかざ

三田灸点

白	大二	二十八
揚	大二	百二十二
焼		四十

入浴 0.24

二月八日（火曜）

五時半起床、晴、晴、晴

南西風冷寒

当町公同組合長様宅へ渡辺様と同伴、慰問袋送付下されし件に付き、御礼

に行った

護王神社護王婦人会入会す、とめ

七ふく五十銭

三里灸点

粟辻三エ門氏方店員入営満州の為父送、午後七時半

白	大二	三十
揚	大二	百十
焼		四十

青まめ	
青まめ	0.24
香の物	
入浴	0.10
七福薬	0.50

二月九日（水曜）

五時半起床、晴、晴、晴

西南の風冷寒

田村弥一郎氏、伊勢大神宮参詣土産しよが糖貫らふ

二月十日（木曜）

五時半起床、晴、晴、晴

西北之風冷寒

入山知子、氏神様へ初参りす、且し、一ヶ月後れて

○山内与惣吉氏、祖母二十五回忌供養志さらし綿布一

二月十一日（金曜）紀元節（建国祭）

五時半起床、晴、晴、晴

風和温

田村十次郎氏来訪あったが、父留守であった

長浜門川ミネ殿、武田五一氏死去に付き上京し、帰りに立寄り、堀川活動

写真へ行つて（好子、エイ子）共に一泊す

白	大二	三十二
揚	大二	百二十三
焼		三十

克太良、道夫入浴  
 千切小芋揚  
 むわし焼  
 こうじ漬。千石

白	大二	三十二
揚	大二	百二十
焼		四十

炭、西山より  
 割木笹治より六十

白	大二	三十
揚	大二	百二十二
焼		四十七
飛龍豆		二十八

電球二	0.70
入浴	0.16
青物	0.36

二月十二日（土曜）

五時半起床、晴、晴、晴

北西風温

長浜門川ミネ、京都駅十時発ニテ帰洪す

大阪永野君留守見舞に来訪

田村弥一郎氏来訪

二月十三日（月曜）

五時半起床、晴、晴、晴

北の風、温、春の訪つれ暖かい日であった

谷岡より伝言に、泰三も元気に活躍とのこと報あり

和一郎へ通信す

二月十四日（月曜）

五時半起床、雨、雨、曇り

東北の風、暖

午前十一時頃、初雷りあった

和一郎より便りありたり

白	大二	二十八
揚	大二	百二十
焼		四十
こんにゃくとあげ		
ねぎと鱈、湯葉		
父、中村あんま		
散ばつ		0.50

白	大二	二十八
揚	大二	百二十二
焼		四十
あぜかぶら		
黒豆とうすら豆		

白	大二	二十八
揚	大二	百二十二
焼		四十
作り身		
ねぎと焼豆腐あげ		
入浴		

二月十五日（火曜）

四時半起床、晴、曇、曇

北西の風、寒

伊賀田次君より画葉書好子に来る

伊田サト来宅

二月十六日（水曜）

四時半起床、晴、晴、晴

東南の風、暖

父、午後二時半頃外出、六時頃帰宅、寺町遺<sup>通</sup>迎院へ

長浜より門川葉書来る

二月十七日（木曜）

五時半起床、雨、曇り、晴

北西の風、烈風に寒

木花氏、男子出生す、十二時前

午後七時半、田村十次郎氏来宅

白 大二 三十  
揚 大二 百二十四  
焼 四十

はたけ菜とあけ  
塩さけ

白 大二 二十八  
あげ大一 六十二  
焼 四十

ぐじとあをりいか  
天婦羅  
好子、克太良、道夫、  
エイ子、入浴

白 大二 三十二  
揚 大二 百二十二  
焼 三十五  
飛龍頭 二十

おから  
青豆 焼とあけねぎ



二月十八日（金曜）

五時半起床

晴、晴、晴

西北の烈風、冷寒

父、宿坊慈眼寺に亡母の施餓鬼の日取りの打ち合せに付き、寺に詣る

二月十九日（土曜）

五時起床

晴、粉雪、粉雪

西の風烈、冷寒酷

父、親類へ御茶の子送り、巡り外出

煤煙防止会老円

白	大二	三十二
揚	大二	百十二一
焼		四十

白	大一
揚	大一
焼き	十八

塩鮭、桜ぼし	
煤煙防止会	1.0
第二部豆腐商組合経費	0.50

白味噌にねぎ汁
千切と揚豆腐

二月二十日（日曜）

五時起床

粉雪、雪、晴

西の風、冷寒

年回、茶の子くぱり

（父、克太良）

二月二十一日（月曜）

六時起床、晴、晴、晴

北西の風、温

天室妙帷信女十七回忌法要、慈眼寺にて執行す

参詣者、山田安之助、木花正一、山田タミ、入山トメ、入山音次郎、伊田

サト、入山シス、入山好子、入山淳司、入山喜美子、同 享子、同 エイ子、

同 道夫、木花央雄等

和一郎より手紙来る

二和佐仕出し

子供全部三十五銭

大人 〔空〕白

白	大二	三十二
あけ	○	
焼		四十

白	大二	三十二
揚	大二	百二十
焼		三十

二月二十二日（火曜）

五時半起床

北西の風、晴、晴、晴

午後冷寒となる

午前の巡り中止す

税務所員来談す

○伊藤林三氏妻君来宅

○田村弥、田村藤七、岡本友氏、茶の子送る

福知山陸軍病院より渡辺四郎君札状来る（慰問の）

中村あんま、とめ

二月二十三日（水曜）

五時半起床、晴、晴、晴

北西の寒風、寒冷

竹田友彦氏、茶の子の礼にせん香持つて来宅

静の縁談、白川の花売女より有りたり

浅野様宅より静電話す、好子参□、自働車にて、夕方静子帰宅

青年調査票記入す

長浜門川、山田氏へ茶の子発送の荷造りす

白	大二	三十
揚	大二	百三十
焼		四十

ほしゐわし  
青えんど豆

白	大二	三十二
あけ	大二	百二十二
焼		三十

二月二十四日（木曜）

五時起床、晴、粉雪晴、晴

北西の風、寒

龍野寺田廣子より手紙来る

隣り子供へ和一郎より手紙来る

岡本友次郎氏来宅、高野豆腐御仏前へ

（カメンエン）買  
（七福）買

二月二十五日（金曜）

四時半起床、晴、粉雪晴、晴

北西の風、冷寒

午前十時頃、田村長次郎氏来宅、年忌の礼に御仏前へそは餅

田村弥一郎氏、年忌の礼に御仏前へもなか

風邪の気味、巡り休ミ寝る、中村あん摩

灸三里へ

白 大二  
揚 大二

炭 西山 二俵  
割木 笹治 六拾

白 大二 卅二  
揚 大二 百二十二  
焼 四十

まぐろすき焼

二月二十六日（土曜）

晴、晴、晴

手洗鉢に薄氷り張る

隣りせん母親来る

巡り休み、一日寝る

夕方より井水出しぶり止む

二月二十七日（日曜）

38.4

二時半

38.2

五時半

道夫病気す

白 大二  
揚 大二

グリセリン一本 1.45

玉川薬局 0.20

克太良眼鏡 1.30

大豆 十吩

二月二十八日（月曜）

三月一日（火曜）

五時起床、晴、晴、晴

東南の風、温、六十度

泰三ヨリ葉書来る、無事

田村伊三郎氏来宅

軍友会服着初めす

前川氏方柳正夫君入営出發、午後六時三十分（兼立）祇順

三月二日（水曜）

五時半起床、晴、晴、晴

東南の風、温、六十二度

滋野学区、最初の帰かん兵坂本君

白 大二  
揚 大三  
焼 二十

白 大二  
揚 大一

白 大二  
揚 大一

三月三日（木曜）

五時起床、晴、晴、晴

北東の風、暖

山安より五色寿司貰ふ

三月四日（金曜）

四時三十分起床

東の風、晴、晴、晴

昨日におとらぬ暖かい天気であった

三月五日（土曜）

五時起床

東北の風、雨、曇り、雨

久し振りの本降りの雨、暖かであった

中村あんま、父

白 大二  
揚 小三  
焼 四十

白 大二 三十丁  
揚 小二 百丁  
焼 三十丁  
飛龍頭 二十二

白 大二 三十四  
揚 大一 <sup>四十六</sup>六十二  
焼 三十五  
飛龍頭 四十

三月六日(日曜)(地久節)

五時半起床

南の風、小雨、曇り、曇り

柳下凱旋す

新京極花月席〔マヅ〕、父、せん母親、出征軍へ家族慰安会

隣り喜美子へ

泰三より手紙・写真来る

静帰宅す

三月七日(月曜)

大二  
揚 小二

白 大二  
揚 大一  
焼 三十五

三月八日(火曜)

五時半起床

大たい晴れ、時々しぐれ、又小粉雪ちらくどあり、

北西の風で寒い日であった

門川様よりかぶら漬送り下さる

豊田齒医者へ行く

竹下一二三氏凱旋

白 大二 二十八  
揚 大二 百二十  
焼 四十五



三月九日（水曜）

五時起床

晴、東北の風、寒

三月十日（木曜）（陸軍記念日）（勤儉貯蓄記念日）

五時起床、小雨、曇り、曇り

和一郎より葉書来る

三月十一日（金曜）

五時半起床す

曇り、曇り、曇り

芝原氏令女死去の報有

克太良、道夫、桃山遠足す

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

白 大二  
揚 大二  
焼 三十

店用金とうし 中村

白 大二  
揚 大二  
焼 四十

白 大二 三十  
揚 大二 九十八  
焼 四十五

芝原へ蒲鉾 1.00

三三（一六〇八）

三月十二日（土曜）

五時起床す

晴、晴、晴

三月十三日（日曜）

五時半起

晴、晴、晴、北西風、寒

芝原令女告別式

三月十四日（月曜）

五時起床す、曇り、曇り、曇り

五十二度、寒、北西の風

井本藤之進死去の報有り

北支派遣軍谷口隊より隊長殿手紙来る

白	大二	三十
揚	小二	七十六
きつねあけ		六十
焼		二十
割木		六十束

白	大二	卅二
揚	小二	八十六
焼		四十八

芝原香資 3.00

白	大二	二十八
揚	小二	九十
焼		四十八

芝原へもなか 1.20

三月十五日（火曜）

五時半起床す、北の風、寒

晴、晴、晴、六十度

井本藤之進密葬午後八時

和一郎より写真来る

父嵯峨しやか堂参詣

三月十六日（水曜）

五時起床す、北の風、寒

晴、晴、晴、五十八度

井本藤之進自宅告別式

午前十時ヨリ十一時迄の間

午後井本氏ヨリ膳部送り来る

尚、本日の労を謝し、井本重郎君来宅す

午後六時半、父外出、芝原氏一七日に参る

白 大二 三十  
揚 大一 六十二  
焼 六十八

白 大二 三十二  
揚 大二 百二十二  
焼 四十

三月十七日 (木曜)

五時五十分起床す

泰三より写真と手紙来る

北の風、晴、晴、晴

六十度、寒冷

白 大二 三十二  
揚 大二 百二十二  
焼 四十

盼売

三月十八日 (金曜) (彼岸)

六時起床す、和風

晴、晴、晴

寒冷、六十四度

白 大二 三十  
揚 大一 六十  
焼 四十

三月十九日 (土曜)

五時半起床す

晴、晴、晴、無風

六十五度

父、午后二時半外出、道夫を従れて大津高山寺へ参詣

電燈の修理を依頼す

堀川出水電気屋

白 大二 三十二  
揚 大二 百二十四

三月二十日（日曜）

〔記載なし〕

白 大二  
揚 大二  
炭 一俵

三月二十一日（月曜） 春季皇霊祭（春分）

五時半起床す

晴、曇り  
（曇り）（雨）

無風、暖、少しきばるとあせが出た

奥のふすま新調す

白 大一  
大豆 五盼

三月二十二日（火曜）

五時半起床す、早朝は雨「マミ」

曇り、曇り、曇り  
雨

無風、暖、七十度

克太良卒業式に付き学校へ、午前の巡り休み出席す

義歯全く成る、廿五円。豊田

白 大二 三十二  
揚 大一 六十  
焼 四十三

三月二十三日（水曜）

〔記載なし〕

三月二十四日（木曜）

五時半起床す

雨、曇り、曇り

六十二度

和一郎より葉書来る

静帰宅す

三月二十五日（金曜）

〔記載なし〕

白 大二  
揚 大二  
焼 四十

三月二十六日（土曜）

五時半起床す

東南の風弱

晴、晴、晴

六十四度

西村和三郎氏方森田哲三君召集令来る

和一郎より慰問品の礼状、東魚屋町一同様へ来る

中村あんま

三月二十七日（日曜）

長浜より形見の品を送り来る

和一郎より写真と手紙来る、せん殿へ

せん頭痛にて寝る

中村あんま来る

白 大三 四十八  
揚 大一 六十二  
焼 八十

三月二十八日（月曜）

五時起床す

雨、六十四度

克太良、松原商務受験、付添母午前七時半外出、

午後三時半帰宅

三月二十九日（火曜）

五時起床す

晴、六十五度

西北の風、温

克太良受験二日目

三月三十日（水曜）

五時起床す

晴、六十五度

北西の風

克太良受験第三日

夕刻より芝原の三退夜（遠）に父外出す

白 大二 三十  
揚 大二  
焼 四十三

炭 二俵

白 大三 三十六  
揚 大一 六十  
焼 六十

室内電燈コード 0.20  
大豆 十俵

白 大二 二十八  
揚 大一 六十  
焼 四十



三月三十一日（木曜）

〔記載なし〕

四月一日（金曜）

〔記載なし〕

四月二日（土曜）

五時起床す

日本晴、七十度

出征軍人家族慰問日、都をどり見物、静子

清水寺、円山公園へ、父、克太良、道夫

白 大二 二十八  
揚 大一 六十  
焼 三十四

白 大二 二十八  
揚 大一 六十  
焼 四十

割木 六十束

四月三日（日曜）（神武天皇祭）

五時起床す

花曇り、六十八度

京都駅十時発列車にて父、好子、克太良、長浜へ行かれた

四月四日（月曜）

〔記載なし〕

四月五日（火曜）

五時起床す

晴天、五十八度

田楽を作る

五色<sup>（寿司）</sup>寿を作る

白 大二 二十八  
揚 小二  
焼 三十五

白 大二 三十二  
揚 大一 六十二  
焼 四十

四月六日（水曜）

五時三十分起床す

北西の風、晴、五十六度

小川出水和田宅、桜花満開

午後四時三十分長浜ヨリ帰宅、父、克太良、好子無事

漸業は■続行

四月七日（木曜）

「記載なし」

四月八日（金曜）

五時三十分起床す

西南の風、晴、時々曇り、七十三度

今井、田中の両名、午後二時頃製品の検査に來宅

白	大二	二十八
揚	小二	九十六
焼		四十

白	大二	二十八
揚	大一	六十
焼		四十

四月九日（土曜）

〔記載なし〕

四月十日（日曜）

五時起床す

北西の風、晴れ、六十八度

上長者町豆腐商奥西氏、第中立売署第二部組合経費集収（マツ）に来る、

三、四月分一円

東魚屋町御千度北野神社へ参詣、皇軍武運長久祈願す

今日は日曜日なり、花どきなので、各町の御千度催しあり、

方々人と出多く、賑ぎやかなことであつたようで、

夜（マツ）は小供達琴平様の夜店へ行つた

白	大二	二十八
揚	休	
焼		三十

白	大二	三十二
揚	小二	九十六
焼		三十

四月十一日（月曜）

五時起床す

北の風、雨、午後四時晴れる

六十六度

白 大二 三十二  
揚 大二 百二十  
焼 四十

わかめ味噌汁  
蒲鉾とふき

四月十二日（火曜）

五時起床す

北の風、曇り、晴、六十三度

とめ。静。音次郎。健康診（電話立）にて中立売署へ行った、午前の巡り為に休

隣り清吉、徴兵検査の為野洲へ帰へる

白 大二 卅二  
揚 小二 九十六  
焼 四十

四月十三日（水曜）

五時起床す

北の風、晴、六十二度

道夫、将軍塚へ遠足す

隣り淳司、野洲より帰宅す、清吉帰る

護王神社の護王会費一円

一合升一個買入す、五十銭

白 大二 三十二  
揚 小二 九十二  
焼 三十五

四月十四日（木曜）

五時起床す

北の風、晴れ、午後四時半より雨降り出した、六十六度

豆腐商第二部宍愛宕会堀川島捨席にて相催す、出席

長浜山田寅行き

大約一個買入、八十五銭

四月十五日（金曜）

五時起床す

北の風、曇り、晴、烈風

午前中、午后は止む

六十八度

四月十六日（土曜）

五時起床す

北の風、晴、六十八度

父、午前七時三十分大和カシ原神宮へ参詣

泰三より手紙来る

白 大二 二十八  
揚 大一 六十  
焼 三十八

白 大二 三十  
揚 小二 九十六  
焼 四十八

白 大二 卅二  
揚 大一 六十  
焼 三十五

四月十七日（日曜）

五時起床す

北の風、曇り、六十八度

とめ、中村あんま

油小路丸太町上ル小西方店員応召、歩兵福知山午前九時出發す

下長者町垣田君母堂死去、午後四時告別式ありたり

四月十八日（月曜）

五時起床す

西南後ち北西の風、曇、六十四度

町内杉本健蔵君の慰問の礼状来る

四月十九日（火曜）

午後八時より伏見稻荷神社參詣す

白 大二 二十八  
揚 大一 六十二  
焼 四十

白 大二 二十八  
揚 大一 六十二  
焼 四十

白 大二 二十八  
揚 大一 六十二

四月二十日（水曜）

五時起床す

東南の風、七十六度

ワイシャツ一 沓円九十銭

組合より葉書来信

四月二十一日（木曜）

〔記載なし〕

四月二十二日（金曜）

防空演習

白 大一 廿四  
揚 大一 六十五

白 小二 卅二  
あけ 大一 六十二  
焼 十八



四月二十三日（土曜）

五時起床す

東の風、曇り、七十二度

炭、西山

四月二十四日（日曜）

五時起床す

西南の風、曇り、七十五度

割木、笹治

四月二十五日（月曜）

五時起床す

西北の風、晴、六十五度

父、北野神社参詣

克太良、夕食後毛利医師の診察、頭脳（痛カ）の為受る

白 大二 卅二  
揚 大一 六十五  
焼 四十

白 小二 二十六  
揚 大一 六十五  
焼 三十五

白 大二 卅二  
揚 六十五  
焼 四十

四月二十六日（火曜）

五時起床す

南の風、晴、七十度

けふ靖国神社臨時大祭日

殉忠の英魂に銃後の感激あらた

けふ天気晴朗にして風さわやかなり

泰三より元氣御奉公の便りあつた

伊田民之助氏来訪ありたり

道夫、風邪にて寝る

父、中村あんま

午後八時町内会議、町旗の件なり

四月二十七日（水曜）

五時起床す、東南の風、曇後雨

寒雨午後一時頃より降り出す、六十五度

克太良、好子、各学校よりの遠足、比叡山

製品検量、白百三十匁、揚五枚デ二百十五匁、一枚四十三匁、焼〇

商業組合株金第二回払込金五円出支す

父、中村あんま

今出川河原町自働車（ママ）の聞合せ、とめ行つた

隣りせん、野洲へ淳司、良造を従れ、日帰りした

本家のばあさん来る

白 大 卅二  
揚 小 百  
焼 四十五

白 大 卅二  
揚 小 百  
焼 三十九

四月二十八日（木曜）

五時起床す

南の風、六十六度、晴

四月二十九日（金曜）（天長節）

五時起床す、北西の風、晴、七十二度

縁談問合せ、大原村百井へ行き、八瀬より引返す、

八瀬より一里半の里程（静、たみ）

鯉轆り竹を立てる

四月三十日（土曜）（靖国神社祭）

五時起床す、南の風、日本晴、七十六度

泰三、和一郎より便りありたり

午后、鯉轆り揚げた

一月中旬より井水湧出止みしところ、今日より出水す

白	大二	二十八
揚	小二	百
焼		三十五

白	小二	
揚	大一	六十四
焼		二十八

白	大二	卅二
揚	大一	六十五
焼		四十四

大豆十俵

ガス Y1.25

五月一日（日曜）

五時起床す、南の風

七十六度、晴

富田様、静子の縁談申込有

五月二日（月曜）（八十八夜）

五時起床す、東の風

七十三度

雨

下御霊神社にて中井千代、木村シゲ両名の病氣平癒の祈願、町内一同参詣  
岡本友次郎氏訪問す

白 大二 卅二  
揚 小二 百  
焼 二十四

音次郎、とめ入浴 0.10  
エイ子理髪 0.20

白 大二 卅二  
揚 大一 六十五  
焼 四十

電燈 2.61  
動力 2.52

五月三日（火曜）

四時卅分起床す

東南の風、雨で午後曇り

七十四度

長浜門川氏より機械の件に付き返事来る

五月四日（水曜）

四時四拾五分起床

南の風、終日まで曇り、七十八度

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

白 大二 卅二  
揚 大一 六十五  
焼 三十

白 大二 卅二  
揚 小二 七十六  
焼 四十四

五三（五八八）

音、風薬<sup>[風薬]</sup>り 0.30  
克、道、好、エイ子入浴 0.15  
道夫、遠足費 0.27

川崎貯蓄銀行 13.15

五月五日（木曜）

五時四十分起床

南の風、曇り、八十二度

五月六日（金曜）（立夏）

五時起床す

曇り、七十八度

泰三より葉書来る

長浜へ葉書出す

門川氏より漬物来る

五月七日（土曜）

四時四十五分起床

北の風、晴れ、七十六度

午後四時半、浄土寺浅野様宅讓受者の知人、

静子の縁談の議申込件ニ付き来宅

白	大二	卅二
揚	小二	六十五
焼		三十五

白	大一	小一
揚	大一	六十五
焼		二十

白	大二	卅二
揚	小二	七十四
焼		四十五

粽	五抱	1.25
家屋税	一期	14.72

五月八日（日曜）

五時起床

降雨にて掃事<sup>除カ</sup>中止、十四日に延期す。七十度

五月九日（月曜）

四時四十五分起床

北西の風、曇り、七十度

山内時三氏婚儀の祝儀

米屋町小原氏方坂下清太郎君出征す

五月十日（火曜）

五時起床

南の風、日本晴、七十度

田村十次郎氏来訪<sup>門</sup>

白 大二 卅二  
揚 大一 六十五  
焼 三十

白 大二 卅二  
揚 小二 百  
焼 三十

白 大二 卅二  
揚 小二 百  
焼 三十五

五月十一日（水曜）

五時起床

南の風、晴、七十二度

伊田さんと様、猪ノ子様、衛生掃除手伝の帰り立寄られた

広田灸点す

五月十二日（木曜）

五時起床す

南の風、晴、七十五度

滋野校区内にて十五名特務兵召集令下る

下長者町山本貞之助二男の山本某<sup>[ママ]</sup>シ

白 大二 卅二  
揚 小二 百  
焼 四十八

商務学校<sup>[ママ]</sup>受業料 1.00

白 大二 卅二  
揚 小二  
焼 四十

宗像神社参拜会 0.50  
割木 六十束



五月十三日（金曜）

南の風、日本晴、七十五度

山和清吉、徴兵検査ニ付帰郷す

召集令下ル

灸点す

五月十四日（土曜）

南の風、日本晴、七十五度

衛生掃除執行す

父、野洲の祭りに淳司、エイ子を従れて行かれた

田村藤七氏、午後六時頃来訪ありたり

五月十五日（日曜）

東の風、晴れ、午後次第にあしく雨模様となる。七十五度

葵祭り、今宮祭り举行さる

二条駅八時五十三分発列車にて、父と好子摩気神社へ祈願祭

召集令下ル、滋野学区卅二名、小川丸太町、山下。平井。三田村。二弥三。

灸点す

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

白 大一小一  
あけ 小二 百  
やき 二十

二条駅より園部まで  
大人二人

白 大二  
焼 七十  
あけ休み

京都駅より野洲往復  
大人一人

白 大二 卅二  
揚 小二  
焼 四十八

五七（五八四）

五月十六日（月曜）

東の風、曇、五時起床、七十二度

大阪浅野様遺産、弁護士中川事務所より手紙、和一郎、静へ来信。

稲吉氏母堂、婚礼祝の礼返しに来る

お仙母親手伝に来る

五月十七日（火曜）

四時半起床す

南東の風、曇り、七十五度

戦地より谷口隊々長より手紙来る

○静、浅野様遺産分配金受取に、大阪中川弁護士方へ野村ミツ老人と行き、

午後十時半帰宅す

白	大三	
揚	小二	百
焼		八十

白	大二	三十四
あけ	大一	六十五
やき		二十

散髪	0.50
電燈修繕	0.90
炭	西山

五月十八日（水曜）

四時三十分起床

南の風、曇り、午後三時より降雨

朝巡りに焼二十持ちでる。

あげ、こんにやくのため、時弓柄売行あ不況

井戸ポンプ修繕す、籠谷、吉田新一條

五月十九日（木曜）

六時起床

南の風、曇り、午後三時より久方振りに太陽光りに向、七十五度

御宴休み。午后一時町内組合長殿宅集合、下御霊神社二入魂式、

出征兵及び征途中の兵武運長久願祭行ふ

五月二十日（金）

【記載なし】

五月二十一日（土曜）

長浜西川氏宅へ機<sup>機老</sup>様の件に付き行く

白 大一 六  
やき 四十  
あげ 〇

白 大一  
あけ 小一 五十  
やき 十

〔五月二十二日から六月十三日まで記載なし〕

六月十四日（火曜）

五時起床、雨

西日本に出水害あり

竹田武彦氏来宅、芝原氏真如堂法林寺にて法要の件に付きて。

六月十五日（水曜）

〔記載なし〕

六月十六日（木曜）

〔記載なし〕

六月十七日（金曜）

隣り清吉、江洲三上へ帰る

六月十八日（土曜）

〔記載なし〕

白 大二 卅二  
あげ 大一 六十五  
焼 四十

そうり 二

六月十九日（日曜）

東町数之助君、ふく習二付き、舞鶴へ行く

〔六月二十日から六月三十日まで記載なし〕

七月一日（金曜）

五時起床

降りみ<sup>マ</sup>ふらすみじ<sup>ミ</sup>とじと、して、むし暑い天気であった

本年度第二次防空訓練に午後六時より参加す

七月二日（土曜）（半夏生）

五時起床、七十五度

曇り雨相半す

広田灸点す

午後五時三十分頃と思う、松商克太良担任先生来宅、

行商中にて不在の為面会せず

白 大二 卅二  
あ 大一 六十五  
や 三十

白 大二 卅二  
あげ 大一 六十五  
や 二十

大豆 安□五 広州  
五  
割木 六十束

七月三日 (日曜)

五時起床、七十二、七十九度

曇雨相半す

七月四日 (月曜)

雨降、七十八度

七月五日 (火曜)

五時起床

七十七度

豪雨京洛一带水禍、鴨川筋各橋一時通行止となる

中袋一個山岡にて買入

白 大二 卅  
あけ 六十五  
やき 三十

白 大二 卅二  
あけ 大一 六十五  
やき 三十

白 大二 卅二  
あけ 小二 七本  
やき 三十

七月六日（水曜）

四時半起床す

八十二度

曇り

七月七日（木曜）

四時三十分起床

曇り後ち晴れた

八十六度。初夏らしくなった

今夏はじめてきぬこしを造る

東魚屋町下御霊神社参拝、御百度

皇軍将兵武運長久祈願並戦ぼつ将兵の英霊に目札、

後ち町内出征勇士の宅慰門<sup>〔圖〕</sup>、慰門品砂糖一箱。

滋野学区各団体の慰門<sup>〔圖〕</sup>ありたり

泰三より無事の便りありたり

タイヤ。新品を用ゆる（十〇〇〇〇）  
（九〇〇〇〇）

白	大二	卅二
あけ		六十六
やき		—

白	大二	卅二
あ	大一	六十六
や		三十
きぬ		八丁

七月八日（金曜）（小暑）

四時三十分起床、曇り後晴

八十度、八十六度。

水道桂〔檢カ〕破損す、依つて人造石桂〔檢カ〕と替へる

七月九日（土曜）

滋野校齊藤先生謝恩会〔寄〕寄付二円

七月十日（日曜）

晴れ、時々曇り

八十度〓八十八度。

和一郎、泰三に慰問品送る

九百六十匁、平均八十八錢

第二部内佐々江。西澤。川添

〔七月十一日から七月三十一日まで記載なし〕

白	大二	卅二
あ	大一	六十五
や		十五
きぬ		八丁

白	大二	卅二
あ	小一	六十
や		二十



八月一日（月曜）

四時卅分起床、79、75、

早朝より終日夜に入り雨降り続き、夕方よりは風いでたり

今日第二の土用の丑の日

八月二日（火曜）

五時起床、● 74、78、78

夜中より引続き大風、大雨、近畿各河川増水し、高野川・加茂川各橋通行

止ありたり

午後巡り休み

八月三日（水曜）

午後起床、● 78、84、80

大いたい曇りで、時々時雨れがあり、むし暑い日であった

きぬこし、だめ。

戦地へ小包送る、泰三、和一

あげ	大一	65
白	大二	32
焼		20
白		8
きぬ		8

あげ	大一	62
白	大二	14 14
焼		35

らっきよ  
なすびとあげ

あげ	大一	63
白	大二	16.2 16.2
焼		35

なすびとあげ  
こんにやく白あへ  
うなきの蒲焼

八月四日 (木曜)

四時半起床、● 80、84、80

曇りであり、時とき小雨あり、むしろあつかった

東魚屋町ラシオ体操会出場す、エイ子、道夫、音、

八月五日 (金曜)

四時四十五分起床す

● 曇り、78、84、84

東町山安以前女中福井県鯖江 はる来訪す

松商教員出征に付き、克太良船岡山に集合、歩行二条迄歓送す

八月六日 (土曜)

四時卅五分起床す

○ 晴、76、90、84

あけ 小一 50

白 大三 14、14、14

焼 25

あけ 小二 100

白 大二 16  
16

白 2

焼 25

飛龍頭 16

奴豆腐

天ふら 野菜物

あけ 大一 65

白 大二 16  
16

白 2

焼 25

白 4

きぬ

湯葉と干びよ

あじ

なすびとあげ

八月七日（日曜）

五時起床す

○ 76、92、84

土用明け近くなり土用中不順続きが、土用明前の今日より照り返し強くなる

田井俊雄君へ饒別二円

八月八日（月曜）（立秋）

五時起床す、● 82、82、82

曇り、時雨度々有りた<sup>「マヤ」</sup>

午後一時半、父、克、道外出、慈眼寺真如堂へ参詣、六時半帰宅

八月九日（火曜）

五時

● 82、8、82

東裏辻町田井俊雄君出発、午后一時半福知山へ入隊

あけ	大一	63
		二十
やき		0
白		14
白		14
白		8
白		8
きぬ		8

赤いもといんげ豆  
魚真那かつを

あけ	大一	52
		五
やき		10
白	大二	16
		16
白		4
白		8
き		0

あけ	小一	50
		20
やき		16
白	大二	16
		4
白		4
き		8

八月十日（水曜）

四時三十分、82、92

●

摩気神社、父、タミ参詣す

八月十一日（木曜）

五時起床す

○、82、92

泰三より手紙来る、両名とも無事

森田へ白十丁

朝巡り休ミ

〔八月十二日から八月三十一日まで記載なし〕

あけ	小	54
やき		10
白		24
白		18
き		8

あけ	小一	54
やき		七十
	府庁	内四十
白	大三	

九月一日（木曜）（二百十日）

四時三十分起床。

大箱あけ地から。

七十九度、八十七度、八十七度、曇り后晴

米屋町各員四十名程、宇治青谷傷病者病院へ勤勞奉仕。

東魚屋町<sup>長</sup>肅屋次男君応召、出發午後二時ギフ

九月二日（金曜）

五時起床

七十九度、九十度、晴

道夫、ヅククツツ 六十八錢

エイ子、散髪 二十錢

あげ 大一	65
白 大二	24 + 22 = 46
やき	0
飛龍頭	24

あげ 大一	65	3.90
五枚	260	180 匁
五枚	450	22 ケ
やき	35	2.10
白	34	4.08

九月三日（土曜）

四時三十分起床、晴、○、①、●、●  
前日の残りの揚、約三十五程あり

此の日、白豆腐二十四丁造り、焼豆腐止め、

九時外出、兩名丸太町釜座より市電上車、

出町叡電にて八瀬ケーブルにて四明嶽より横川元三大師堂参詣、

下向峠やどりで雷雨に相、<sup>「マヤ」</sup>暫時にして止む、

往路反退にて帰宅七時であった

四明嶽駅より北支へ兩名に葉書を出したが、

印紙点附をわすれた、

山で元の生古十葉をほぼこ等つま草して持帰った

九月四日（日曜）

五時起床、○、○、●、●

八十二、八十九、八十六

前日疲労が出て、なんとなしくたびれ、午前の巡り止めた

隣り仙んあてに、北支戦地から今日朝書留便で三十円送金があった

○重葉を少しせんにて吞む

あげ 六十五 売切

福助開店にて、あげ二十五枚

白 大二 三十二、残り二丁

やき 二十、十 残り十五

白 大一 24丁

往復電車 一人分 十二銭 出町迄

叡電ケーブル四明嶽 七十銭

元三大大師供物 五十銭

釈堂茶料 五銭

九月五日（月曜）

五時起床、●、●、●、●

八十度、八十度、八十度

近畿地方大風雨襲来す、幸い被害はなかった。

風の方向は東北より、雲は北西へ込むだ、雨は少なし

夕食後の間なしに、弥一郎君来訪あり、本家所有家屋竹屋町富小路西平屋

二棟売買約、手付金受渡出来すとの話しありたり

九月六日（火曜）

五時起床、○、○、○、○

前日の越豆大分あったので、今日チンボンで使ったら、出来が皆目だめ、

其の為不利得だった

中村あんま、音

あげ 小二 百枚 売切

福助三十枚渡す

白 大二 三十六丁 売切

やき 三十 売切

あげ

白

やき

飛龍頭

九月七日（水曜）

五時起床す、七十九度、八十二度

●、○、○、○

午后三時、父あんま

○梨木神社宮司より葉書にて出征軍人武連長久祈願祭参列の招待あり

九月八日（木曜）

五時起床、七十四度、七十六度、八十度

○、○、○

午前十時頃、田村十次郎氏来宅、暫時にして帰宅

小島市太郎氏店員井上喜代造君、応召にて餞別三円（入山直次郎  
入山せん）

長浜門川氏より奈良漬少送り来る

かふら菜漬る

あけ 小 百。38 残り  
やき 三十五。10 残り  
白 大二 三十二。0

あけ 小 二百枚  
やき 三十  
白 大二 三十四



九月九日（金曜）

四時三十分起床、七十八度〓八十四度

〇―、晴れ風なし

午前四時頃、長浜門川ふじ殿急病の知らせあった、午後三時半死去の知らせあった。

急病いッチユ。

午前七、四四分列車にて長浜に行く

とめ途中加藤様に大友御願して、秦様に立寄り、狐の「した」薬りを持参す  
散髪す

九月十日（土曜）

五時起床

午前十時京都駅発列車にて長浜門川氏へ向ふ

山田宅に一泊す

あけ 大一 65、九残り

やき 三十。 15残り

白 大二 十六、十四、四。 2残り

あけ 小一 50

白 大一 廿四丁

門川氏御□香儀 5.00

旅費 1.27

九月十一日（日曜）

晴、冷し

午後四時、門川氏自宅出棺

九時十二分発列車にて帰宅す、長浜発九時十二分、

米原九時四十九分。京卜駅着十一時四十分、

宅着十二時二十分

車まタイヤ直シ

九月十二日（月曜）

〔記述なし〕

あけ 大一 六十五  
白 大一

九月十三日（火曜）

五時起床、六十八度、七十六度

○快晴、早朝涼しかった

今日行商を二三日間休んだので、

行き先の得意先にて出征両兄弟の安否を気つかつて、

三人もお尋ね下さいました。矢場田様、川勝様、遠山様であつた。

エイ子偏桃線（びんごしん）を病む、町内加藤薬局にて□富葉にて手あてす

横川元三大師参詣の帰途雨降り、比叡山にて採集元の証光を呑む

広田灸点す

九月十四日（水曜）

四時三十分起床、七十六度、八十度

○快晴、涼しかった

秦氏

加藤友次郎氏礼に行く

門川氏より会葬礼状

明日早朝七時十五分より停電す

広田灸点す、八時半就寝

あけ	小二	九十八。	60
やき		二十五。	
白	大二。		
白		三十八。	
飛		十七。	

あけ	小二。	九十八。	20
やき		三十五。	1
白	大二。		
白		三十四。	6
一斗	九升。		

九月十五日 (木曜)

四時起床、六十八度、七十四度

○快晴

七時十七分停電、十二時十五分通電。

父、芝原訪問。

○三上村仙母親来る、自家造りの醤油五合程と小芋少し土産に持参す。

四条富小路杉村屋の隣り秦様へ(きつねのした)の礼に行った。(とめ)

九月十六日 (金曜)

五時起床、六十八度、七十四度

○快晴、午前十一時半頃ばらくと時雨れがあった。

○田村弥一郎氏立寄られ、たばこやの家売買は中止になった話を仕てかえられた

○父、寺町遺迎院参詣、岡本友訪問。静、殿井様訪問。

滋野校出征軍人家族慰問有たり

町内公同組長、任に付き、田中氏宅にて夕七時四十分より役員会あり、

席上にて山田安之助氏組長と決定す

あげ	小二	八十四。	20
白	大二	(16) (14)。	0
やき		(20) (20)。	0
炭一俵	岩崎		2.00
味噌汁、さつま芋入り			
こゝもと焼とうふ			

あげ	小一	三十八	
白	大二	(16) (10)	
やき		(20) (30)	
午后の行商休み			
道夫学用品費			0.60
割木			
あげと荒め。			
赤味噌汁白豆腐、はも切落			
秦様へお礼の品			1.00

九月十七日（土曜）

五時起床、六十六度、七十四度

●曇り後ち晴れで午后は快晴<sup>で</sup>秋日よりの涼しい日であった。

和一郎より葉書到来す（九月一日の日付け）

文面によると美味。のり。味の素など送れとの事であった。

慰問品を送るにも戦地へ各戸人あての物は、

一時中止になっているから、仕方がなく見合わせている

灸点す

九月十八日（日曜）

五時起床、六十六度、七十六度

●午前曇り、午後晴れで秋日より涼しい日であった

玉の湯代替り開業す

福助は川新で揚豆腐買入れて居る由、豊屋妻君より聞く。

父、あんま中村。

タイヤ裏のゾウリ一買、坪田。

静、好子、堀川常盤館へ。

○父、腸が悪るくてアイブ<sup>「ママ」</sup>腹用。

今日白地大釜二ツ、竜山大豆仕用す、良く実がのる

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

あけ 小二 八十一。  
白 大二 (16) (8) (16)。0  
やき (20) (20)。

タイヤ裏雪駄一 坪田 0.30  
なすびと揚げ  
あ□鱈のてり焼

七七 (五六四)

あけ 小二 八十六。20  
白 大二 (20) (10)。0  
やき (10) (30)。4

大豆 五俵 田中氏 50.00  
青菜にあげ  
味噌汁はも切落し  
じゃが芋と薩摩芋

九月十九日（月曜）

五時起床、六十八度、七十四度

●曇り、午後雨め降りと成る

下半身にほろ／＼が一面に出て、風邪の気味故（うさぎ）<sup>「マヤ」</sup>風薬りを呑む。  
山安へ油を分けた

九月二十日（火曜）

五時起床、七十二度、七十六度

●昨夜来の雨、正午頃に晴れ、次第に上天気となりたり

○交り袋<sup>「マヤ」</sup>煮る

○今日もうさぎ風薬りを呑む

○戦地へ送る防寒毛布、国防婦人会へ金壹円献金

あけ 大一 小一 <sup>大</sup>(62) <sup>小</sup>(36)  
白 大二 (16) (14)  
やき (20) (24)  
飛龍頭 二十八  
こんにやく。七十、糸二升

隠元豆三度豆とあげ  
なすび。  
斗六豆。

あけ 大一 小一 <sup>大</sup>(65) <sup>小</sup>(37)  
白 大二 (16) (14) (4)  
やき (20) (20) (4)  
三度豆とあげ  
とろゝ汁と玉子焼

九月二十一日（水曜）（彼岸）

目をさましたら時計は五時を打っていた、気温は七十度であった  
○れ

表入口のガラス、朝車を出して当て、割った（とめ）一円四十銭  
父は十時頃より東寺弘法様へ詣り、桃山木下氏訪門

九月二十二日（木曜）

五時十五分前に起床

○六十八度、七十六度、七十四度

○小森様より丹定栄養饅頭貰ふ

○長浜門川和次郎来宅

○隣り仙ん母親三上村へ帰宅

○田村弥一郎氏来訪、たばこ屋家の売買の話であった

石橋は値段にか、わらず断りであったとの事

○下長者町白山湯へ入浴す

あげ 小二 (100)  
白 大二 (20) (8) (12)  
やき (10) (20) (8)

青菜とあげ  
鱈のてり焼と味噌汁る

あげ 大一 (65)  
白 夫一 (16) (8) (8)  
白 大一 (16) (4) (4)

味噌汁 とうふ入  
自家製天婦羅 はも

九月二十三日（金曜）

五時起床、六十八度、七十六度

●曇り、午后四時半より小雨あり、夕方止む

○山田安之助氏宅にて

○滋野青年団軍へ後援会、協賛会加入申込み

十二年、三年二ヶ年を一期とす、会費一円

防空訓練打合せありたり

十月三日、五日の両日に当る

三日午前〇時より六時迄

五日は午后六時より十二時迄なり

今初めて代替り玉の湯へ入浴す

七ふく一買

九月二十四日（土曜）秋季皇霊祭（秋分）

四時四十五分起床、七十二度、七十八度

●快晴

○午后父慈眼寺参詣

○静、好子、石田勝秀堂の消虫丸買ひに行つた

子供全部入浴に行つた

あげ 小二釜 (96)  
白 大二釜 (20) (16)  
焼 (10) (20)  
味そ汁  
こんにゃく白あへ

あげ 小釜二 (104)  
府庁へ四十枚渡す  
白 大二 (20) (10)  
(16) (20)  
(16) (4)  
白豆腐のやっこ、浅草のり  
湯葉と百合根〔そ脱力〕のみ汁、鰻  
斗六豆



九月二十五日(日曜)

五時起床、六十六度、七十四度

○快晴

午前十時頃、山内時三君あけ、とうふ買に来られた

午後一時頃より順次に子供全部外出、北野天満宮参詣す

東町山安より五目寿し、木花、銭幸饅頭、彼岸の供養に貰ふ

●

○彼岸供養に鳴海あられ

九月二十六日(月曜)

四時三十分起床、六十六度、七十二度

○快晴

今朝向ひ二和佐与吉殿召集令来る

父、中村あんま

○午后三時頃田村十次郎氏来話ありたり

○第三回防空訓練に入る

青菜を漬る、米買入

錢別 伊賀、藤井、南井、入山、入山和一郎

○二和佐店員与市君へ

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録(西村 卓)

あけ	小二釜	(96)		
白	大二釜	(16)	(16)	(4)
焼		(10)	(20)	

青菜  
鱈と青菜とあげ

あげ	小釜二	(96)		
白	大二	(16)	(20)	
焼		(20)	(10)	

とうふ汁

八一 (五六〇)

九月二十七日（火曜）

五時三十分起床、六十八度、七十四度

●曇り、少しむし暑い日であった

隣り仙、子供全部従れ、伏見稲荷神社へ参詣す

木花英雄誕生日で赤飯を<sup>〔やき〕</sup>炎き持参す

九月二十八日（水曜）

五時起床、七十度、七十九度

●前日と同じむし暑い日であった

午后二時東魚屋町の防火演習を行なうた

大豆十俵、龍山五、廣瀬<sup>〔五〕</sup>

こんやく屋主人来る

（こんやく<sup>〔脱カ〕</sup>品質の件につき）

一応召二和佐店員矢野与市君、午前十時出發す

○貯金三円二十銭

あけ	小二釜	(100)
白	大二釜	(16) <sup>自</sup> 2 <sup>自</sup> (14)
やき		(10) <sup>ヤ</sup> (20) <sup>ヤ</sup>

うの花みり  
黒豆

あげ	小二釜	(96)
白	大釜三	(16+4) <sup>自</sup> (10) <sup>自</sup> (14) <sup>自</sup> (2) <sup>自</sup>
やき		(10) <sup>ヤ</sup> (30) <sup>ヤ</sup> (15) <sup>ヤ</sup>

青菜とあげ  
湯葉と玉子のお汁

九月二十九日（木曜）

四時起床、七十二度、八十度

●曇り

五時三十分中塚君再度の応召出発、多数歓送にて元氣よく出立さる

吹す油缶を売った

遺迎院へ油一缶寄進す

銀閣寺木村様（元浅野様の屋敷）静へ縁談申込の為来訪

九月三十日（金曜）

五時起床、七十二度、七十六度

●曇り、夕刻より小雨降り出す

○中井芳太郎氏〔空白〕 状ありたり

（鳴滝音戸山に仮寓）

あけ 小二釜 (96)  
白 大二釜 (16) <sup>ヤ</sup>(20) <sup>自</sup>(10) <sup>ヤ</sup>(30)

すぎ芋とあげ

塩鮭

あけ 小三釜 (144)  
あけ残りやく七十程  
白 大二釜 <sup>自</sup>(16) <sup>自</sup>4 <sup>自</sup>(10)  
やき (10) (30)

糸こんにやくとあげ  
しじめ汁とあじ付焼  
漬物かぶら。浅漬け

十月一日（土曜）

五時起床、七十二度、八十度

●曇り

防空訓練で行商中空襲があつて一時間余り中止でこまつた

○午後六時三十分、空襲警報発令あり、

其の後、父新聞夕かんを奥の間にて電燈を明かるく付けたあり

読んで居られたので明りが外部にもれ、

防護団員が主意に巡りびつくりして消燈す

十月二日（日曜）

四時三十分起床、七十八度、八十度

●曇り、夕方小雨にて夜に入る

父、園部摩気神社参詣、克太良従れて行れた

むし暑く大変なよしらずで、入浴せな寝られないので、湯に行つた

一線箱を造つた、是れで考がれは、白十丁取りにもなると思ふ

あけ 小二釜  $(48)$   $(38)$   
 白 大二釜  $(16)$   $(4)$   $(4)$   $(16)$   
 やき  $(10)$   $(20)$   
 白  $(16+4+4+16) = 40$   
 ヤ  $(10+20) = 30$

ずいき芋  
 鯛とやきとうふ  
 松茸とうふ汁

あげ 大一釜  $(60)$   
 白 大二釜  $(16)$   $(4)$   $(10)$   $(16)$   $(20)$   
 白  $(16+4+16) = 36$   
 ヤ  $(10+20) = 30$

塩鮭  
 あわび貝と松茸汁

十月三日（月曜）

第一防空訓練、勤務時間

午後六時より十二時まで

勤務中異状なかった

日暮れより降り出した雨、

十時頃より猛烈に降り出し、

夜明前に小降りとなり

十月四日（火曜）

第二防空訓練、勤務時間

午後六時より十二時迄

右勤務中異状なし

七時十六分空襲警報あり

内七時四十五分解除さる

今日夜、月き明り清く、昼をあざむく。

炭一俵 岩崎

十月五日 (水曜)

五時起床、七十二度、七十三度

○

払下米、数之助君。繁手伝て貰って学校より運ぶ、

五吠と三吠、但し隣り三吠

十月六日 (木曜)

五時起床、六十八度、七十四度

○

静縁談にて浄土寺

浅野氏あと木村宅へ多美行

○散髪す

◎豆揚、いかき二個

あけ 小釜二 (96)

白 大二

<sup>白</sup>(24) <sup>白</sup>(18)

ヤキ (15)

あらめとやっこ豆腐

あじと斗六豆

あけ 大一釜 (65)

白 大三釜

<sup>白</sup>(16) <sup>ヤ</sup>(10) <sup>ヤ</sup>(10) <sup>白</sup>(16)

<sup>ヤ</sup>(10) <sup>ヤ</sup>(10) <sup>白</sup>(16) <sup>白</sup>(4) <sup>ヤ</sup>(10)

味噌汁とうふ

ずゐき芋

<sup>[空白]</sup>炭 俵 木ノ下

十月七日（金曜）

五時起床、六十八度、七十二度

○快晴

神戸まで静の縁談に付き聞き合せに父。多美。静同道で行った

○滋野校小運動会有った

下長者町小川東小西君除隊帰宅す

好子、市電ケアゲに集合、浜大津迄徒歩、

三井寺、日吉神社等参拝、三条大橋にてかい散

十月八日（土曜）

四時三十分起床、六十六度、七十度

○曇り晴

2 午後二時より滋野学区内出征軍人遺家族こんだん会有り、午後一時より

1 護王神社にて戦徒<sup>（遺）</sup>祈願祭、余興、万歳、落語、こゝ談などあり、父が出

席

〔十月九日から十日まで記載なし〕

あけ 大一釜 (65)  
 白 大二釜 別ニ一箱  
 (4) 16<sup>ヤ</sup>(4)  
 (4) 14 (4) 2<sup>ヤ</sup> 別 (10)<sup>ヤ</sup>  
 やき (10) (10) (5)  
 白三十六 焼三十五  
 すぬき芋  
 うなぎかば焼  
 割木六十束 笹治

あけ 小一釜 (96)  
 白 大二釜  
 (4) 16 (4)<sup>ヤ</sup>  
 (4) 16 (4)<sup>ヤ</sup>  
 やき (10) (20)<sup>ヤ</sup>  
 白。三十六 焼。三十  
 やきあげ甘煮  
 玉子とじ  
 うさぎ風薬 五十銭

十月十一日(火曜)

五時起床、七十四度、七十六度

●降雨、小雨終日降る

田村十次郎氏の氏神祭日で、弥一郎殿と同道にて三時半外出  
兵庫県揖保郡龍野町横町寺田寅次郎より鮎の煮込を送り来る

十月十二日(水曜)

四時三十分起床、七十二度、七十四度

●曇り、時雨降り

午後、道夫野球あそび中に、

友人の為顔面をバットにて打たれ傷を負い、

直ちに松山外科医院にて手当を受く、経過良し

あけ 大一釜 (65)

白 大二釜  $\frac{ヤ}{4}$  (16)  $4 - \frac{自}{4}$

別に小箱二  $\frac{自}{4} = \frac{ヤ}{4}$

白 (16+5+14+4) = 39

焼 (10+10+10) = 30

あけ 大一釜 (65)

白 大二釜  $\frac{ヤ}{4}$  (16)  $\frac{ヤ}{4}$

$\frac{ヤ}{4}$  (16)  $\frac{ヤ}{4}$

別 小二箱  $\frac{自}{4} = \frac{自}{4}$

白 (16+5+16+5) = 42

焼 (10+10+10+10) = 40



十月十三日（木曜）

四時三十分起床、七十度、七十三度

●雨、曇り

隣り野洲より松茸送り来り、少し貰ふ

向ひ藤井様妻君里〔マゴ〕とより母親様松茸下さる

御池稲吉へ松茸を送る

十月十四日（金曜）

五時起床、七十二度、七十三度

●曇り

元山岡店員繁吉、再応召下り、

今回は無事入隊すとのこと

バイヤス〔バイヤス〕湾上陸す

あけ 小二釜 (100)  
 白 大二釜 (16) 4 4  
 (16) 4 4  
 小箱一  
 安 大豆五呎入荷

あけ 小二釜 (100)  
 白 大二釜 4 (16)  $\frac{4}{4}$   
 $\frac{4}{4}$  (14)  $\frac{4}{4}$   
 小箱一  $\frac{4}{4}$   
 焼 (10+10+10+10) 40  
 白 (4+16+14) = 34

十月十五日（土曜）

五時起床、六十八度、六十六度

●降雨、朝早くヨリ終日続ク

滋野校運動会延期す

町内石博様年忌の供養御茶の子有りたり

○出征軍人祈願武運長久、松尾神社ニテ中央市場の主催、  
鮎鶴の折り詰、山安様ヨリ泰三の分を送らる

十月十六日（日曜）

○

滋野校大運動会開催

父、敬考会【マコト】に出席

三上仙、母親来る

十月十七日（月曜）（神嘗祭）

○

滋野校庭にて学区青年団体育向上大会ありたり

近江穴村へ仙、良造、知子を従れて行つた

久方ぶりで堀川常盤館に行た

あけ 小一釜（百）

白 大二

やき 四十一

豆腐味噌汁

焼松茸とあじ魚

十月十八日（火曜）

五十八度、六十度

○早朝寒冷

山岡彦造方店員繁吉、勇躍出発す

午後一時より東山真如堂にて、

出征軍人皇軍将兵家族武運長久の祈願ありたり

父上、参列す

十月十九日（水曜）

四時三十分起床、五十八度、六十六度

○快晴

やす国社社りん時大祭

父、大和大路松原夷神社参詣あり

夕刻より、とめ、静子、よい、夷参詣

豆腐商業組合事務所より物品量目検査に来る、平塚。

（<sup>「密」</sup>白）。

あけ 小二釜 (100)  
 白 大二釜 <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub> (16) <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub>  
                   <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub> (16) <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub>  
 白 (16 + 16 + 4 + 4) = 40  
 焼 (10 + 10 + 10 + 10) = 40

あけ 小二釜 (100)  
 白 大二釜 4 (16) <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub>  
                   <sup>[ママ]</sup> <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub> (16) <sup>ヤ</sup>/<sub>4</sub>  
 白 (4 + 16 + 16) = 36  
 焼 (10 + 10 + 10) = 30

十月二十日（木曜）

五時三十分起床、六十度、六十四度

●曇り、日汲（汲カ）より降雨となる

父、午後三時外出、西院本。十。方へ

好子、六時頃帰す、学校の都合にて

● 十月二十一日（金曜）

父、午后東寺参詣

あんま中村

堀川中央館へ

あけ 小二釜 (100)

白 大二釜 小箱二

白  $\overset{\text{白}}{(4)}$  16  $\overset{\text{ヤ}}{(4)}$   $\overset{\text{白}}{(4)}$   $\overset{\text{白}}{(\frac{4}{2})}$

$\overset{\text{ヤ}}{(4)}$  10  $\overset{\text{ヤ}}{(4)}$   $\overset{\text{ヤ}}{(4)}$   $\overset{\text{ヤ}}{(4)}$

焼  $(10 + 10 + 10 + \overset{10}{10} + 5) = 55$

白  $(16 + 4 + 4 + 2 + 10) = 36$

十月二十二日(土曜)

○五時起床、五十八度、六十三度

広東カンラクす

時代祭

十月二十三日(日曜)(靖国神社祭)

五時起床、六十度、六十四度

○快晴

七条通り中堂寺

一羽 十七円

メス、ヨリデナイ

六羽、ヒヨ子

ナゴヤコーチン

十月廿三日 買入

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録(西村 卓)

あけ 大二釜 (122)

白 大二釜

(<sup>ヤ</sup>4 16 <sup>ヤ</sup>4)

(<sup>ヤ</sup>4 16 <sup>2</sup>4) 2

白 16 + 16 + 2 = 34

やき 10 + 10 + 10 + 5 = (35)

九三 (五四八)

あけ (小二釜 100)

白 大二釜 <sup>ヤ</sup>4 (16) <sup>白</sup>4

4 (14) <sup>ヤ</sup>4

白小箱一釜 <sup>ヤ</sup>4 <sup>ヤ</sup>4 (6) <sup>ヤ</sup>4

白 (16 + 4 + 14 + 6) = 40 丁

焼 (10 + 10 + 10 + 9 + 9 + 9 = 57 丁)

十月二十四日（月曜）

五時起床、五十八度、六十四度

○快晴

道夫の顔面の傷【マズ】す全快

此の間の治療費六円程

〔十月二十五日〜同月二十六日記載なし〕

十月二十七日（木曜）

午後五時三十分、武漢三鎮を完全に攻略す

割木着す、荷六十束

あけ 小二釜（百）

白 大二釜 小函一

$(\overset{\text{白}}{4}) (\overset{\text{ヤ}}{4} \ 16 \ \overset{\text{ヤ}}{4})$

$(\overset{\text{ヤ}}{4} \ 16 \ \overset{\text{ヤ}}{4})$

白  $(4 + 16 + 16) = 36$

焼  $(10 + 10 + 10 + 10) = 40$

十月二十八日（金曜）

五時起床す

○

下御霊神社参拝

正一時より護王神社

夕方より提灯行列

十月二十九日（土曜）

五時三十分起床、六十二度、六十六度

●雨

隣り清吉、十二月八日出発の予定との事に相成り候由

〔十月三十日記載なし〕

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

あけ 小二  
白 大二

あけ 小二 (100)  
白 大二  
白 (4. 16. 4)  
白 (4. 16. 4)

白 = 16 + 16 = 32  
焼 = 10 + 10 + 10 + 10 = 40

九五（五四六）

十月三十一日(月曜)(世界勤儉デー)

五時起床す、七十二度、六十八度

○

十一月一日(火曜)

五時起床、六十二度、六十六度

○快晴

田中茂にて大豆買入す

古大豆拾五俵、新白眉二

松商陸上運動会催しありたり、静子、道夫いく

今日亜学校も運動会であった、エイ子と隣り淳司と共に見に行つた

そうして終会になるまで行つた

十一月二日(水曜)

五時起床、五十六度、六十三度

○秋晴れの良い天気

夕食後、好子、克太良、静子、活動に行つた

火の用心巡り

あけ 小二 (100)  
白 大二  
(4. 16. 4)  
(4. 16. 4)  
白 ([記述なし])  
焼 (4. 4. 2.)

あけ 小二 (100)  
白 大二  
(4. 16. 4)  
(4. 16. 4)  
白 (16+16) 32.  
焼 (4. 4. 4. 4.) 40

味噌汁 若芽  
焼とほうれん草  
桜ぼし

あけ 小三釜  
白 大二



十一月三日（木曜）明治節（明治神宮祭）

五時起床

○快晴

市木氏来訪、清吉入営打合せノ為ニ

第一回町對抗相撲大会催行

夜、中央館へ

十一月四日（金曜）

五時起床、五十四度、六十二度

○

滋野校々堂にて朝日ニュース映画ありたり

エイ子、静、北野天神祭りに行

〔十一月五日から十一月二十八日まで記載なし〕

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

あけ 小二 (100)

白 大二

あけ 大二 (128)

白 大二

（4. 16. 4）

（4. 16. 4）

白（16. 4. 16.）36

やき（10. 10. 10.）

九七（五四四）

十一月二十九日（火曜）

亀山君、京都へ帰る

〔十一月三十日記載なし〕

十二月一日（木曜）

午後二時半南井一雄、軍人として主家を大数の人々に送られ出発す

木ノ下和助氏来訪

十二月二日（金曜）

今日より仙ん、魚の巡り商に出る

南井一雄 銭別 3.00

十二月三日（土曜）  
田村福蔵氏息餞別

十二月四日（日曜）  
泰三より葉書来る  
田村十次郎氏来訪

〔十二月五日から十二月三十一日まで記載なし〕

日中戦争期における一豆腐行商人の生活記録（西村 卓）

揚 小二（百枚） 田村氏餞別 巻 .50  
白 大二（中□四十六） 杉本氏方店員餞別

（にしむら たかし・同志社大学経済学部教授）

九九（五四二）